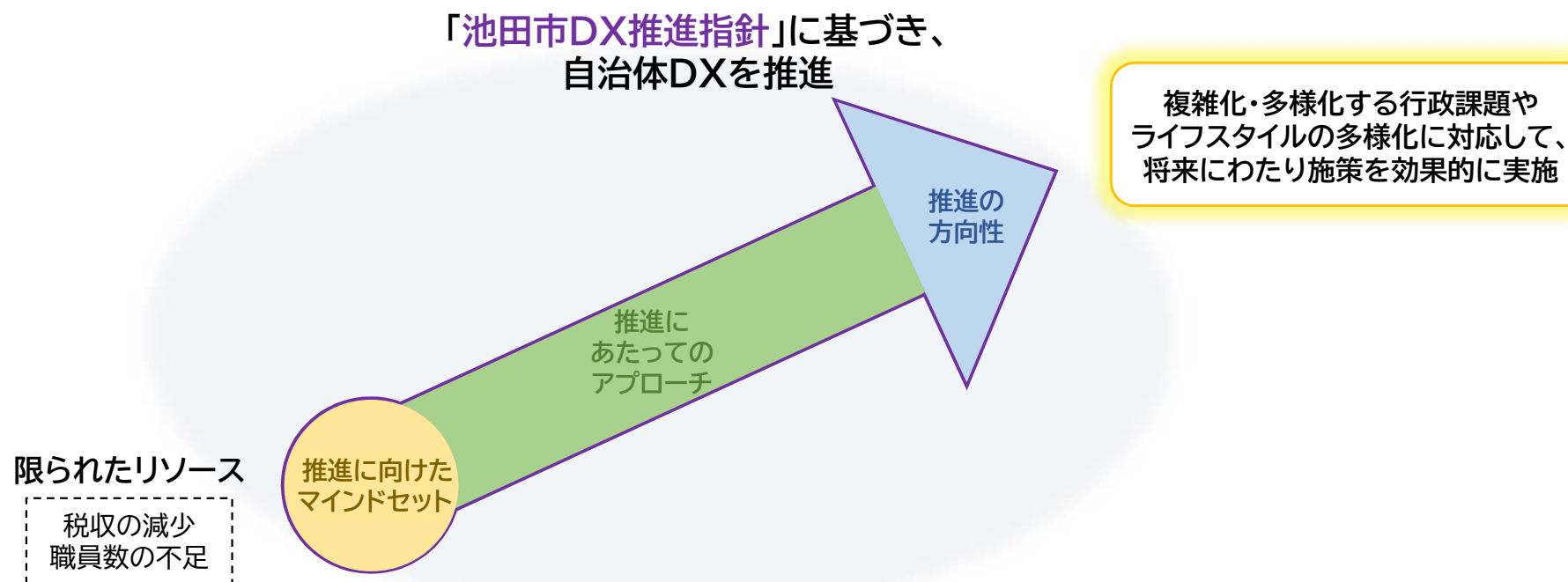


池田市DX推進指針

令和5年8月7日策定
池田市未来創生戦略本部

1 策定の趣旨

- 近年、デジタル技術は急速な発展を遂げており、複雑化・多様化する行政課題や人々のライフスタイルに対応して、本市が限られたリソースをもって将来にわたり施策を効果的に実施していくためには、デジタル技術の活用による行政サービス及び業務の変革、いわゆる自治体DX*の推進が不可欠です。
- この指針は、あらゆる施策におけるDXの推進に向け、その方向性や考え方などを示すことで、庁内風土及び職員意識の醸成を図り、もって持続可能なまちづくりの実現につなげるために策定するものです。



2 定義

- ▶ この指針において、DXは次の2つの要素の両方を満たすものであって、本市のすべての職員が自らの業務の中で不断に取り組むものと定義します。

① デジタル技術の活用

- 処理が高速かつ正確であること、複製が簡易かつ劣化しないこと、場所の制限を受けないことなどのデジタル技術が有する利点を踏まえ、これを積極的に活用すること。
- ただし、単に既存の業務フローの一部をデジタル技術に置き換えるだけに留まるものではないこと。

※ 例えば、これまで紙のみで受け付けていた申請書について、メールによるデータ送付での受付を可能とするケースを想定したとき、受け付けたデータを職員がバックヤード*で紙に印刷して管理やシステム入力を行う業務フローを残置したままでは、データの利活用や業務負担軽減などの観点に鑑みてDXと呼ぶには不十分であると言えます。

② 業務の変革

- これまでの運用や慣例などを点検した上で、より効果的・効率的に成果を発揮できるように、業務を変革すること。
- ただし、変革に係る財源や人的・物的リソースは当然に考慮されるものであり、また、特に市民サービスに関わる業務については市民目線を最重視して検討されるものであること。

3 推進の方向性

- ▶ 2の定義を踏まえた上で、すべての職員が手段と目的を違えることなく取組を進めていくため、本市が推進するあらゆるDXは、次のいずれか若しくはその両方の方向性に沿ったものとします。

① 市民サービスのDX

<キーワード> **もっと身近で、すぐに届くサービス**

<視点の例>

- ・ 市民がサービスを必要としたとき、いつでもどこでも対応できる。
- ・ 行政からの大事なお知らせなどがプッシュ型 *でもれなく届けられる。
- ・ 行政と市民の双方向型コミュニケーションが実現される。
- ・ 従来の手続に比べて簡便となり、また、複数手続のワンストップ化 *が実現される。
- ・ 必要なデータが公開されており、誰もが主体的にまちづくりに参画できる。

② 行政内部のDX

<キーワード> **ムダなく、正しく、質の高い行政**

<視点の例>

- ・ AI *・RPA *などを活用し、従来よりも早く、正確な事務処理が行える。
- ・ 蓄積されたデータをもとに、EBPM *による高度かつ的確な政策立案及び意思決定ができる。
- ・ より多くの事業分野や取組が連携し合い、費用対効果が最大化される。
- ・ 業務負担の軽減で生まれたバッファ *から、他の業務の質向上や次なる業務改善が連鎖される。
- ・ ワークライフバランス *が向上し、いきいきと働ける魅力のある職場が実現される。

4 推進にあたってのアプローチ

- ▶ 3の方向性に向けてDXを推進していくにあたっては、DXという考え方の特性に鑑みて、従来の業務の進め方に捉われず、次に掲げるようなDXに適したアプローチを採用するものとします。

① アジャイルな思考と取組の実践

- 日々進化するデジタル技術を施策に取り入れていくにあたっては、「今までやってきた方法」にとらわれることや、「絶対に成功すること(失敗しないこと)」を過剰に重視することによって、かえって好機を逸することや施策効果が小さくなってしまいうこともリスクであるものと認識し、過去の慣例にとらわれずにアジャイル*な思考と取組を連続させることで、結果として課題に対する解決策を早期に提示し、施策効果の最大化をめざすこと。

② 取組の連携及び拡大

- DXの取組の効果を可能な限り高めるため、各部局が取組を進めるにあたっては、同様の取組を行うことができる部局、関連する施策や取組を実施している部局などと連携を図ること。また、成功事例については横展開、応用による取組の拡大を図ること。そして、各部局の取組などを検討段階から積極的に見える化、共有するとともに、取組の伴走支援が行える組織体制を構築すること。

③ 全庁的な目標及びテーマの設定

- 各部局が進める取組のベクトルを収斂させるために、3の方向性に沿う形で、全庁が特にめざすべき中期的な目標を別途定めるとともに、その目標からバックキャストिंग*することで、各年度に注力すべき取組のテーマを別途設定し、時勢に応じたDXを全庁体制で推進すること。

5 推進に向けたマインドセット（1）

- ▶ DXの効果的な推進にあたっては、各取組レベルでの試行錯誤はもとより、そうした試行錯誤を強く後押しするような組織及び職員のマインドセット*が重要となります。次に掲げる事項について、各職員は意識的に業務を遂行するとともに、職務権限上で特に関わりの深い部門においては、全庁的なマインドセットの向上に向けた制度の構築などを進めるものとします。

① 各施策の推進、予算編成について

- 各施策の推進にあたり、各職員はこの指針の趣旨などを踏まえ、将来にわたって持続可能なDXの取組を積極的に比較検討し、提案すること。なお、提案はアジャイルに繰り返し挑戦することとし、組織は職員の挑戦や提案を柔軟に受け止め、支援すること。
- 予算編成にあたっては、財源や人的・物的リソースに鑑みた上で、各提案の有効性や費用対効果、また、さらなる変革や他の取組との連携の可能性などを慎重に検討することを前提に、可能な限りDXを推進、応援すること。

② 人材育成・確保について

- DXの推進に向けては、各職員のデジタル技術やセキュリティ対策などに対する知識やリテラシー*、業務の変革に対する意識醸成が不可欠であることから、計画的かつ継続的な研修の実施や人事評価をはじめとする機会の積極的な活用により、人材育成を推進すること。
- また、日々進歩するデジタル技術を主体的に活用する能力をもつ職員や、高度な専門性を有する職員の戦略的な確保を推進すること。

■ 5 推進に向けたマインドセット (2)

③ 庁内外の連携について

- 現場最前線での課題発見及び提案(ボトムアップ)と、幹部層による柔軟かつ明確な意思決定(トップダウン)が好循環するよう、各職員の円滑なコミュニケーションを推進すること。
- また、各部局間の積極的な情報共有と連携を推進するとともに、他の地方公共団体や企業、団体などの庁外の多様な主体と積極的に連携することで、取組の効果の拡大を図ること。

④ デジタルデバйд対策について

- デジタル化に適応できず、サービスを享受できなくなる市民などが生まれないように、丁寧なレクチャーをはじめとするデジタルデバйд *対策を実施することや、場合によっては従来の業務フローなどを併用することにより、“誰一人取り残さない”DXをめざすこと。

6 推進体制など

- 池田市未来創生戦略本部のもと、地方創生やSDGsに関わる取組との包括的な連携により、この指針の趣旨などを踏まえて全庁体制でDXを推進します。

(参考) 池田市未来創生戦略本部について

1. 趣旨

総合計画がめざすまちの将来像の実現を見据え、SDGsの達成に向けた取組及びデジタルトランスフォーメーションを全庁一体となって推進することを通じ、地方創生をより高度かつ持続可能な形で結実させることで、将来にわたって活力ある地域を維持できるよう、池田市未来創生戦略本部(以下「戦略本部」という。)を設置。

2. 所掌事項

以下の3つの事項を有機的な連関性のもと所掌。

- ① 市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定及び推進その他本市の地方創生に関すること
- ② SDGsの達成に向けた取組の推進に関すること
- ③ 情報化の推進に係る総合的企画及びデジタルトランスフォーメーションの推進に関すること

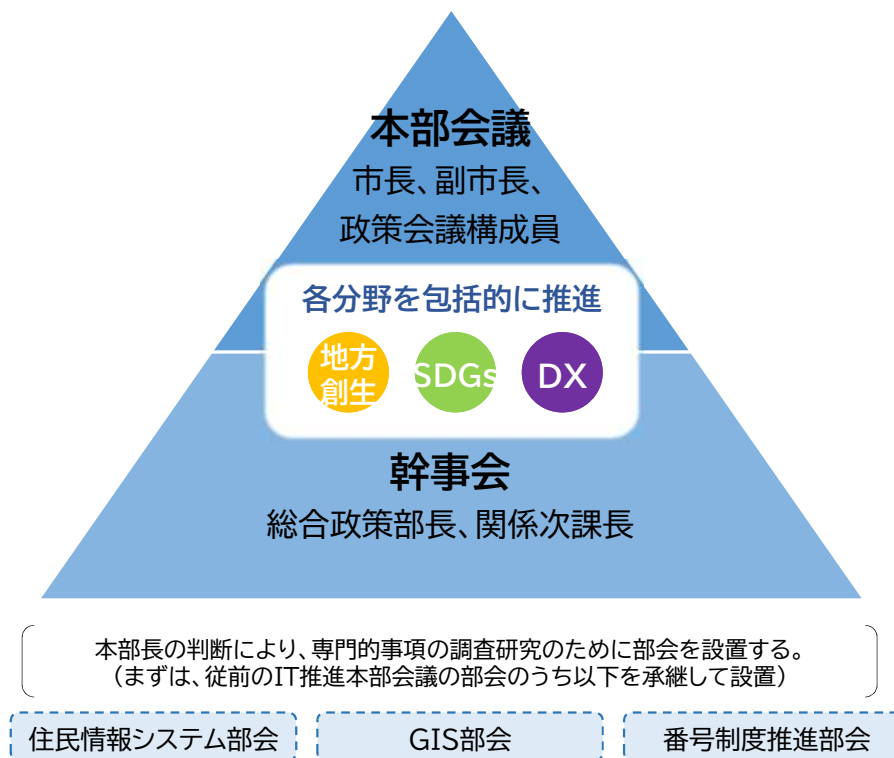
3. 体制

- ・本部会議 … 市長(本部長)、副市長(副本部長)、政策会議構成員
- ・幹事会 … 総合政策部長(幹事長)、幹事長が指名する者
- ・部会 … 本部長が指名する者(部会長)、部会長が指名する者

4. 設置日

令和5年4月1日

<戦略本部 イメージ図>



- また、DXの取組に対する進捗管理及び評価などは、総合計画に係る行政評価、地方版総合戦略に係るKPI *管理その他各取組に関わる適時のプロセスにより実施します。

■ (参考) 用語解説

AI	Artificial intelligence／人工知能。
DX	Digital Transformation／一般に、デジタル技術の活用による業務の変革を指す。
EBPM	Evidence-Based Policy Making／政策の企画などをその場限りの判断に頼るのではなく、目的を明確化した上で合理的根拠(エビデンス)に基づいて立案すること。
KPI	Key Performance Indicator／重要業績評価指標のこと。ゴールまでのプロセスの達成状況を定点観測するための指標をいう。
RPA	Robotic Process Automation／パソコンで行う事務作業を自動化するソフトウェアロボット技術のこと。
アジャイル	機敏、素早いこと。業務などにおいては、小さな単位で物事を迅速に回していくという考え方を指す。
デジタルデバイド	インターネットやパソコンなどの情報通信技術を活用できる人とできない人との間に生じる格差のこと。
バックカスティング	最初に目標・未来像を描き、次にそれを実現するための道筋を未来から現在までさかのぼっていくことで、いま何をすべきかを見つける考え方のこと。
バックヤード	外部と直接的に関わらない管理・事務作業などを行う場所のこと。
バッファ	ここでは、人材・時間・予算などの余裕のこと。
プッシュ型	利用者が能動的な操作や行動を行わずに、提供する側から自動的に行われるタイプの技術やサービスなどのこと。⇔プル型
マインドセット	心構え、思考の癖のこと。
リテラシー	ここでは、分野に関する知識を理解して、活用する能力のこと。
ワークライフバランス	日常における仕事と私生活のバランスのこと。
ワンストップ化	一つの場所に行くことや、一つの作業を行うことで、複数のサービスなどが受けられるようになること。